



県立中央病院

# 地域連携だより



発刊 第46号

発行 令和元年10月吉日

発行者 新潟県立中央病院

地域連携センター



## 令和の時代に想うこと

事務長 杉山 興

令和の時代となって早いもので半年が過ぎようとしています。病院経営にとっても、新しい時代になって変わったこと、変わらないことがあるように思います。

変わったことと言えば、今年は天皇代替わり関連で祝日が例年より4日多くなっています。新たな時代を祝う喜ばしいことですが、病院経営にとっては診療日が少なくなり患者さんの減少につながらないか心配されるところです。

また、10月1日には消費税率の引き上げがありました。保険診療は非課税のため、仕入れにかかる消費税額について診療報酬で十分上乘せ補填されないと損税が生じる問題が過去度々指摘されてきました。国によれば、このたびは十分な上乘せ補填がされているとのことですが、損税が生じていないか見極めていく必要があると考えます。それとともに、非紹介患者等負担額など患者さんの負担が増える部分もあるため、御理解いただけるよう丁寧な周知に努めてまいりたいと考えています。

一方、時代が変わっても変わらぬものは病院の厳しい経営環境です。特に、私ども県立病院の赤字は、県財政を苦境に陥れる「二つの洪水」の一つにあげられているほどです。将来のあり方を含め見直しが求められている病院もありますが、当院のような広域基幹病院についてはこれまで以上の経営努力が求められています。当院としても、さらなる診療報酬加算の獲得など検討していくとともに、地域における役割を果たすよう努めてまいりますので、地域の医療機関の皆様にも一層の連携強化など引き続きよろしく申し上げます。





# 連携登録医の紹介



つちや耳鼻咽喉科

土屋 昭夫先生


新潟県立中央病院の皆様にはいつも大変お世話になりありがとうございます。2014年4月から2019年3月まで貴院耳鼻咽喉科で働かせていただきましたが、患者さんのより近くで地域に根差した医療を行いたいと考え、2019年4月に下源入の地につちや耳鼻咽喉科を開業しました。

開業して5か月が経ちますが、まだまだ日々の業務に慣れません。遠方からも老若男女の患者さんが受診してくれることに日々感謝しております。中央病院の職員さんが当院を受診(ご祝儀受診?)し、温かい励ましの言葉をかけてくださることは特に嬉しく感じております。

スタッフは看護師3人(1人はパート)、医療事務員3人(受付、会計、クラーク)です。0からのスタートで開業当初は不安だらけでしたが、6人ともスターティングメンバーとして非常に頑張ってくれています。

診療内容は、中央病院での勤務経験を生かし、小児から高齢者まで、耳鼻咽喉科疾患を広くカバーして、通院点滴治療など開業医でも可能なものはできるだけ当院で完結できるよう診察を行っております。CTも導入し副鼻腔、中耳、咽喉頭疾患の診察に役立てております。しかし、どうしても開業医では治療内容に限界があります。その際は中央病院OBであることを良い意味で利用して、中央病院に患者紹介させていただいております。緊急患者も含めて快く受け入れていただき、大変感謝しております。

これからも中央病院の皆様にはお世話になると思います。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



## 診療科の紹介



### 放射線治療科 福田貴徳医師

放射線治療科では常勤医 2 名、技師 7 名、看護師 1 名で主に外来診療を行っています。治療患者件数は年間 400～450 件程度です。

放射線治療科外来は他科外来から離れて孤立した場所にあるため、大抵の患者さんは最初たどり着くのに苦労するようです。逆に放射線検査の受け付けを探して間違っ治療科受け付けに来てしまう患者さんもたまにいらっしゃいます。

放射線治療開始までの流れとしましては、

- ①初診：適応の有無、照射方法や計画用画像の撮影日/開始日の決定
- ②治療計画用 CT 撮影
- ③治療計画装置を使って治療計画(医師)
- ④検証作業(技師)
- ⑤開始(診察から数日～1週間後)

特に③④は関係者以外ではイメージしにくい行程かもしれませんが、放射線治療の質を決める作業で、一番大事であり最も時間をかけています。

当院は治療装置 2 台体制で、うち 1 台は高精度放射線治療を主としています。

放射線治療はがん治療の三本柱(外科的治療、放射線治療、薬物治療)の一つです。近年装置の進歩が目覚ましく、より精度の高い良い治療が可能となってきました。同時に準備にも時間がかかるようになったため、スタッフ一丸となって協力し効率よくできるように日々がんばっています。

※2019 年 10 月より治療装置の更新のため約 1 年間 1 台体制となります。関係者各位はご迷惑をおかけすることになると思いますが、どうか宜しくお願い致します。



連載 第5回

認定看護師の紹介

## 林 智子副看護師長

皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCN）の林です。

Wは創傷（Wound）を意味し、褥瘡や下腿潰瘍、離開創など創を治す、がん性潰瘍などの保存的な管理を目的とするケアを行っています。Oはストーマケア（OstomyCare）で、ストーマを造設する前後のトータルケアを行います。先天性疾患の新生児から、癌やそれ以外の疾患、事故などでストーマ造設する患者や家族のケアを行います。Cは失禁（Continence）で便や尿失禁患者を対象に、おむつなどのケアを行います。

どうして「皮膚」「排泄」なのか…それは「ストーマ（人工肛門）」を想像してください。装具に用いられている皮膚に装着する部分は、褥瘡や創傷に使用するドレッシング材としても使用されています！またストーマは尿でも便でも失禁状態（本人の意思とは関係なく漏れてしまう状態）なんです！オムツを使用している人も失禁状態です！納得いただけましたか？



新潟県立中央病院 地域連携センター

上越市新南町205番地

TEL : 025-522-7711 (代)

FAX : 025-524-3232 (直通)

